

まきりは

VOL.35 令和8年1月

私たちの理念

PURPOSE 社会的意義

Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

PROMISE 私たちの約束

「Professional」

医療人としての誇りと謙虚さを持ち、日々研鑽を重ねます。

「Heart」

あたたかい想いやりの心とともに、あなたに寄り添います。

「Team」

和をもった信頼されるチームで、あなたを支えます。

contents

P1 新しい年を迎えて 院長 泰永 募

P2 第25回「まきりは連携の会」を開催しました

P2 「いのちを守る」万博での医療救護体験

P3 11月11日は「介護の日」

P4 リハ部 学会レポート

第9回 日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会

P5 訪問リハビリテーションダイアリー

失語症カフェを開催しました!

P6 デイケア門真だより

おかげさまで20周年! 一感謝とともに、次の一歩へー

P6 「RUN伴+門真2025」 みんなでつなごう!門真の輪!!

P7 旅するドクター 2



新しい年を迎えて

皆様、あけましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、大阪・関西万博の開催、歴史的な酷暑、全国で相次いだクマによる被害など、社会全体に大きな影響を与える出来事が続きました。

まずは、大阪・関西万博の成功が挙げられるでしょう。当初は情報不足への不安から厳しい意見も多くみられましたが、開幕後は大屋根リングの壮大さや各パビリオンの特色が話題となり、最終的には総入場者数が2,900万人を超える成功となりました。私も5月に観覧しましたが、大屋根リングの素晴らしさに感動し、そのスケールと活気に大いに感動した次第です。

一方、酷暑は生活のあらゆる場面に影響を及ぼし、外出を控えざるを得ない状況でした。昭和の頃は、公園や空き地は子供たちの良き遊び場でしたが、昨今は子供たちの歓声を聞きません。少子化もあるのですが、この厳しい暑さの影響も大きいのでしょうか。

酷暑により、エサが少なくなったのか、クマの被害が後を絶ちません。生死の現場に携わる仕事をしているので、多くのクマが駆除される現実には心が痛みます。社会全体の安全を守るため、関連省庁に実効性のある対策を期待します。

さて、医療界としては、2024年の診療報酬・介護報酬の同時改定の影響は依然として大きく、多くの医療機関の経営状態が悪化していることが、大きな問題になっています。2024年度の医療機関の倒産件数は過去20年で最悪の結果になっています。当たり前の医療が続けられるよう、そして医療が身近に感じられるよう、医療制度の安定化

院長 泰永 募

が急務となっています。

このような状況のなか、当院は昨年11月に、病院機能評価3rdG、病院機能評価(高度・専門機能)の受審をしました。各職種で力を合わせて、準備を進める過程で、当院の強みと課題が浮き彫りになり、より良い病院にしていけるためには、常に自己研鑽が必要であることを認識しました。認定結果の通達は今春3月頃ですが、受審の過程にも大きな意義がありました。重要なのは結果そのものより、「受審を通じて得た学びを今後の改善にどう生かすか」と感じており、今年は特に、「質の高い回復期リハビリをより確実に届ける体制づくり」を重点に取り組んでまいります。

また、当院には長期入院の患者さんが多く、医療だけでは、患者さんも「息が詰まる」であろうと、「お花見」と「夏祭り」のイベントを盛り込みました。「お花見」では、屋外歩行訓練を兼ねて、医師・看護師・療法士が付き添い、近隣の公園に花見に行きました。「夏祭り」は、院内で開催しましたが、作業療法を兼ねて、輪投げや射的などの屋台を繰り出し、ジュースやたこ焼を食していただきました。多くの患者さんから、「楽しかった。良かった。」と好評をいただいています。

上記のように、「研鑽」だけでなく、「遊び」も織り交ぜながら、より良い病院を目指してまいります。

最後に、昨年11月、当院は開院20周年という大きな節目を迎えました。この経験を礎に、2026年は“次の20年”への第一歩として、回復期医療の質向上と地域連携のさらなる強化を推し進めてまいります。

どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

第25回「まきりは連携の会」を開催しました

脳神経外科医に聞く! 知って備える脳卒中

当院では、地域の医療・介護・福祉機関との連携を深めるとともに、医療およびリハビリテーションを通じた啓発活動を目的として、「まきりは連携の会」を年2回開催しています。コロナ禍によりしばらく中止していましたが、2025年9月13日(土)、約6年ぶりに再開することができました。

今回のテーマは「脳神経外科医に聞く! 知って備える脳卒中」。前半は、河野副院長より脳卒中の基礎知識、治療法、予防などについて分かりやすい講義が行われました。後半では、訪問リハビリテーション所属の言語聴覚士が「失語症の理解を深める」と題して、事例を交えながら、症状の特徴、失語症の方との関わり方、リハビリテーションの目標などについて発表しました。

講義後には、「失語症の方の支援において日頃感じている困りごとや疑問」などをテーマに、グループ

ワークを実施。当院スタッフも各グループに加わり、地域の多職種の皆さまのご意見やお考えに触れる貴重な機会となりました。

今回の交流で得られたつながりや気づきを、今後の地域連携にも活かしながら、地域で暮らす皆さまへの支援を継続してまいりたいと思います。

地域連携室 名本 あゆみ(なもと あゆみ)



「いのちを守る」万博での医療救護体験

昨年、大阪・夢洲で開催された日本国際博覧会(EXPO2025大阪・関西万博)では、「いのち」をテーマに来場者の安全を守るための医療救護体制が整えられていました。私は医療スタッフとして参加し、その活動を通じて得た経験を紹介します。

私が所属した診療所には、大阪府作業療法士会から救護サポーターが配置され、私は看護師とペアを組んで活動しました。主な業務は、医療物品の準備、AED巡回、救護カートの運転などです。出勤指令が入ると現場へ向かい、救護活動にあたります。

ある夏の昼前、気温の上昇とともに体調を崩す来場者が相次ぎ、ぐったりと横たわる方や、座ることも困難な方が見受けられました。私はバイタルチェックやアイシング、カルテ記録などで看護師をサポートし、重症者にはタブレットで医師と情報を共有しながら

ら対応しました。チームで協力して救急車の到着まで状態を見守り、無事に搬送へつなげることができました。

日頃の作業療法士の業務では経験しない緊迫した現場でしたが、これまで培ってきた知識や経験を活かして対応できたことは、貴重な体験となりました。

訪問リハビリテーション門真 作業療法士
稲尾 公一郎(いなお こういちろう)



11月11日は
「介護の日」

いい日、いい日、毎日、
あったか介護をありがとう

看護部

みんなで
水戸黄門の曲に合わせて
体操しよう!!

2025年11月27日(木)、毎年恒例の「介護の日」のイベントを、外国籍介護士のメンバーが中心となって実施しました。今回は、3階病棟28名、4階病棟27名の患者さんにご参加いただき、過去最多の参加人数となりました。

当日は、水戸黄門の曲に合わせて歌や体操を行ったほか、外国籍介護士の出身国であるインドネシアのダンスも行い、患者さんから好評をいただきました。

これからも、患者さんが楽しめる企画を、外国籍スタッフとも協力しながら作っていきたいと思います。



参加した介護士の声



患者さんが笑顔で『楽しかった』『また参加したい』と言ってくださったことが嬉しかったです。



水戸黄門の衣装や踊りを『かわいい』とほめていただき、楽しかったです。



介護の日のイベントを通して、たくさんの貴重な経験をいただきました。最初は不安もあり自信が持てませんでしたが、患者さんやスタッフの皆さんに、少しでも自分の国の文化を紹介できたことをとても嬉しく思っています。また、多くの患者さんの前で日本語を話すことになるのは想像もしていませんでしたが、患者さんから『楽しかったよ』と声をかけていただき、大きな励みになりました。また機会があれば、インドネシアの文化を紹介して皆さんと一緒に楽しみたいですし、みんなで日本の曲も歌いたいなと思いました。



患者さんと一緒に踊ることができて、とても楽しいひとときでした。

リハ部
学会レポート

第9回 日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会

リハビリテーション医学の明日に向かって
～Let's unite toward our dreams～

【会 期】2025年10月23日(木)～25日(土) 【会 場】旭川市民文化会館・アートホテル旭川

自己研鑽を重ね 質の高いリハビリテーション提供へ

理学療法士 芳本 悠可(よしもと ゆうか)

今回、北海道旭川市で開催された日本リハビリテーション医学会にて、『下肢骨折後に踵部重度褥瘡を併発した症例』について発表しました。

初めての全国学会での発表はとても緊張しましたが、達成感を得ることができました。発表までの準備期間、上司や先輩、同僚からのアドバイスや励ましなど、多くの方々にサポートをしていただき、私にとってとても充実した貴重な時間となりました。

また、回復期病院やリハビリ以外の分野の発表や、最新の医療機器など多くの刺激を受け、さらに当院でも活かせるようなヒントをたくさん得ることができました。

10月下旬の大阪はまだまだ暑い時期でしたが、旭川は冬のコートが必要なほど寒かったです。発表は緊張しましたが、その後に食べたジンギスカンや旭川ラーメン、ソフトクリームはさらにおいしく感じ、学会と同時に北海道も満喫することができました。

今回の学会参加を通じて、自分自身とても成長できたのではないかと感じています。この経験を活かして、今後さらに自己研鑽を重ね、質の高いリハビリテーションの提供に繋げていきたいと思っています。



失語症カフェを開催しました!

訪問リハビリテーション門真では、先日、初めての試みとなる**「失語症カフェ」**を開催しました。失語症とは、脳卒中などの影響により「ことばでのやり取り」が難しくなる障がいのことです。思っていることがうまく伝えられなかったり、相手の話を聞き取るのに時間がかかったりするため、コミュニケーションの機会がどうしても減ってしまいます。外出や人との交流が控えめになってしまう方も少なくありません。

「ことばに不自由さがあっても、安心して過ごせる場所があれば…」

「同じ経験を持つ人同士で、気兼ねなく話したり笑ったりできる時間をつくりたい」そんな思いから、今回の失語症カフェを企画しました。

当日は、当事者の方やご家族に加え、訪問リハビリスタッフ(言語聴覚士、作業療法士)、医療ソーシャルワーカーなど多職種のスタッフも参加しました。クイズ形式の自己紹介から始まり、近況報告、お菓子を囲んだ交流タイムなど、初対面とは思えないほど笑顔と笑い声

が絶えない、あたたかい雰囲気になりました。好きな食べ物の話題や、出身地の話、最近のお出かけのエピソード(「万博行ってきました!」という声も!)など、話題はさまざま。普段は話す機会が少ないという方も、表情が徐々にほぐれ、ゆっくりとご自分のペースで会話を楽しまれていました。

参加者からは、「楽しく過ごせました」「もっとお話ししてみたい」などの声が寄せられ、ご家族からも、「外出のきっかけになった」「つながりができてよかった」といった、温かい感想をたくさんいただきました。

今回の開催を通して、当事者の皆さん同士の交流だけでなく、地域の支援者やスタッフにとっても、支援のあり方を改めて考える貴重な機会にもなりました。これからも当事業所は地域と力を合わせ、誰もが安心して暮らせる環境づくりを目指して、失語症カフェをはじめとした地域活動を継続していきたいと考えています。

作業療法士 松田 那帆(まつだ なほ)



おかげさまで20周年! —感謝とともに、次の一歩へ—

明けましておめでとうございます。

旧年中は、たくさんのご協力と温かいご支援をいただき、ありがとうございました。

今年は牧リハビリテーション病院とともに、デイケア門真も開設20周年という節目の年を迎えることとなります。これまで支えてくださった皆さまに、改めて深く御礼申し上げます。昨年は、日々のリハビリに加え、お食事バイキングや夏祭り、演奏ボランティアなどのイベントも開催し、充実した時間を通じて、楽しみながら身体を動かすことの大切さを改めて感じる一年となりました。

これからも、皆さまが安心してリハビリに取り組める環境づくり、笑い声響く交流の場の提供、一人ひとりの生活に寄り添える支援を目指し、健康と笑顔を支える施設として、スタッフ一同努めてまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

デイケアスタッフ一同

RUN TOMO-PLUS
in KADOMA

RUN+門真 2025

10月19日(日)

ゆめ伴プロジェクト in門真実行委員会主催の
「RUN+門真2025」が開催されました。

「みんなでつなごう!門真の輪!!」を合言葉に、認知症の方や高齢者、ご家族、市民の皆さんが、まちを歩きながら地域をつなぐ恒例のイベントです。毎年楽しみにされている方も多く、今年は約200人が参加。オレンジ色のおそろいのTシャツで、門真のまちが鮮やかに彩られました。

当院からもデイケア利用者さんと職員が参加し、牧リハビリテーション病院を出発点に、門真市民プラザのゴールまで約1時間の道のりを歩きました。さわやかな秋空のもと、一人ひとりのいきいきとした表情が印象的で、笑顔あふれる心温まる一日となりました。

当日の様子は、牧リハ公式Instagramでも紹介しています。ぜひご覧ください。

みんなでつなごう!
門真の輪!
— 認知症になっても輝けるまちへ —



牧リハ公式Instagram



牧リハビリテーション病院



牧リハビリテーション病院
デイケア門真

旅するドクター 2

今号の表紙:ドイツ

今回は、ドイツのニュルンベルグとミュンヘンです。2013年12月に、クリスマスマーケットが見たくて訪れました。

写真上段①は、「世界一有名」とされているニュルンベルクのクリスマスマーケットです。マルクト広場で開催されますが、17世紀からの伝統を守るため、出店には厳しい審査があるそうです。多くの観客でごった返していました。ホットワイン(グリューワイン)を飲んで、体を温めるのですが、個人的には馴染めない味わいでした。また規模に関しては、日本の初詣などの方がはるかに大きく、「世界一」と聞いていただけに、少しがっかりしました。言葉の問題があり、出店の内容が十分に理解できなかったのもマイナスイメージに繋がったのでしょうか。次回、しっかり下調べしてから、リベンジすることとしました。

写真中段左②は、ニュルンベルグとミュンヘンを結ぶ高速列車です。側面のICEはIntercity Express(都市間高速)の略です。乗車当日は雪が降り、多くの列車が遅れ、発着ホームも時々刻々変更されました。掲示板には列車番号と発着ホームが表示されるのですが、乗り遅れてはいけな、と緊張しながら凝視していました。幸い自分たちの乗車する列車はほぼ定刻で入線し、事なきを得ました。さて、時速何kmで走行しているか分かるように、速度計がデッキにあり、乗車中に確認すると、なんと292km/となっていました。日本の新幹線にも、ひけを取らないスピードでした。もちろん、乗り心地も良かったです。ただ、海外では基本的に車内放送がないので、乗り過ごしには十分注意する必要があります。

写真中段右③は、ミュンヘン駅です。ターミナルという言葉の通

り、行き止まり駅になっています。日本でも、一昔前は上野駅を代表とする行き止まり駅が多数ありましたが、利便性が重視されるようになり、ほとんど見かけなくなりました。ドイツ・フランス・イギリスでも大都市では行き止まり駅が数多く残されています。駅舎は天井も高く、開放感があります。日本と大きく違うところは、改札口が無いことです。ホームにある改札機械で切符に刻印を入れてから乗車します。車内検札の際に、切符に刻印がないと不正乗車とみなされ、多額の罰金を請求されます。

写真下段左④は、ミュンヘン新市庁舎です。1867年-1909年にかけて建設された、ネオゴシック様式の市役所で、ミュンヘンの中心マリエン広場の一角に建てられています。100年以上前の建築物を市役所に使っていることから、歴史を重んじる風潮がひしひしと感じられます。中央の塔に、グロッケンシュピール(Glockenspiel鉄琴)と呼ばれる「仕掛け時計」があり、新市庁舎の目玉的存在です。毎日、11:00、12:00に10分ほどのショーが演じられ、それを一目見ようとマリエン広場は人だかりとなります。

写真下段右⑤は、聖母教会の塔です。聖母教会は、1468年-1488年に建設された後期ゴシック建築で、特徴は写真のように2つの玉ねぎ型ドームです。2つの塔は約100mの高さがあり、ミュンヘンのシンボルとなっています。

以上、ドイツを紹介しました。次号もお楽しみに！



アクセス

【電車の場合】
■大阪メトロ長堀鶴見緑地線「門真駅」下車2番出口上がってすぐ。

【お車の場合】
■近畿自動車道をご利用の方は、北行き「大東鶴見」南行き「門真」出口を降りてください。
■第2京阪道路をご利用の方は、西行き「第2京阪門真」出口を降りてください。
■中央環状線(堺方面)からお越しの方は「ラクタブーム」の看板が見えたら「茨田大宮1交差点」を右折し、セブンイレブンの角を左折後直進、1つ目の信号を左折し更に左折してください。
■中央環状線(守口・大日方面)からお越しの方は「ラクタブーム」の看板が見えたら側道へ入り、1つ目の交差点「第2京阪側道へ」を左折後すぐ「三ツ島」より側道へ入り、1つ目の信号を右折(高架をくぐり)更に右折後直進してください。
■1号線(第2京阪側道)(枚方方面)からお越しの方は、北島東交差点後、「三ツ島」より側道へ入りそのまま直進してください。

病院敷地内に駐車場がありますが、少数のため空きが無い場合はラクタブームのコインパーキングをご利用ください。



【お問い合わせ先】

社会医療法人 **ONE FLAG**

牧リハビリテーション病院

〒571-0015 門真市三ツ島3丁目6番34号

<https://www.maki-group.jp/makireha/>

TEL.072-887-0010